

## ＜全体分析＞

試験時間 75分

## 解答形式

記述、選択、論述、計算、描図問題が出題された。

## 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

## 出題の特徴や昨年との変更点

大問数が4題から5題へと増加した。

計算問題は、昨年の2問から4問に増加し、論述問題は、字数指定の問題に加えて、字数指定のない問題が出題された。

## その他トピックス

1つの大問で、複数の分野の設問が出題された。

## ＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	選択 記述 計算	固体地球, 宇宙	地学基礎 地学	地球と太陽のエネルギーをテーマに、固体地球と宇宙の分野から出題された。 問5は、太陽表面から放射されるエネルギーについてのやや煩雑な計算問題であった。	標準
[2]	論述 記述 選択	地球の歴史	地学基礎 地学	岩石サイクルをテーマとして、岩石、鉱物、古生物に関して出題された。岩石や鉱物の特徴の基本的な内容について、的確に、かつ、素早く表現することが求められる。	標準
[3]	記述 計算 論述	大気・海洋	地学基礎 地学	水の循環に関して出題された。 問5は、海水中のナトリウムイオンの滞留時間を求める、やや煩雑な計算問題であった。 問6は、字数指定のない論述問題で、解答欄に即した説明をする必要があった。	やや難
[4]	描図 論述	大気・海洋	地学基礎 地学	海面気圧の観測と、風の吹き方に関して出題された。 問1は、観測値をもとに等圧線を描く問題であり、図をよく見て描く必要があった。	標準
[5]	選択 計算	大気・海洋	地学基礎 地学	地球大気の温室効果と地球温暖化に関して出題された。 問2は、単位に注目して計算するとよい。また、計算を簡単にするための立式もポイントである。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

地学のほぼ全範囲から出題されており、基本的な内容の理解を問うものが多い。「地学」および「地学基礎」の教科書をよく読み、地学現象について正確に理解しておく必要がある。

計算問題は、煩雑な数値計算を要するものが出題されることが多いので、過去問などで練習しておくこと。

論述問題はすべての分野に関して頻出である。基本的な地学現象や用語について、的確に表現できるよう過去問などで練習し、添削指導を受けるなどの対策を行うことが必要である。